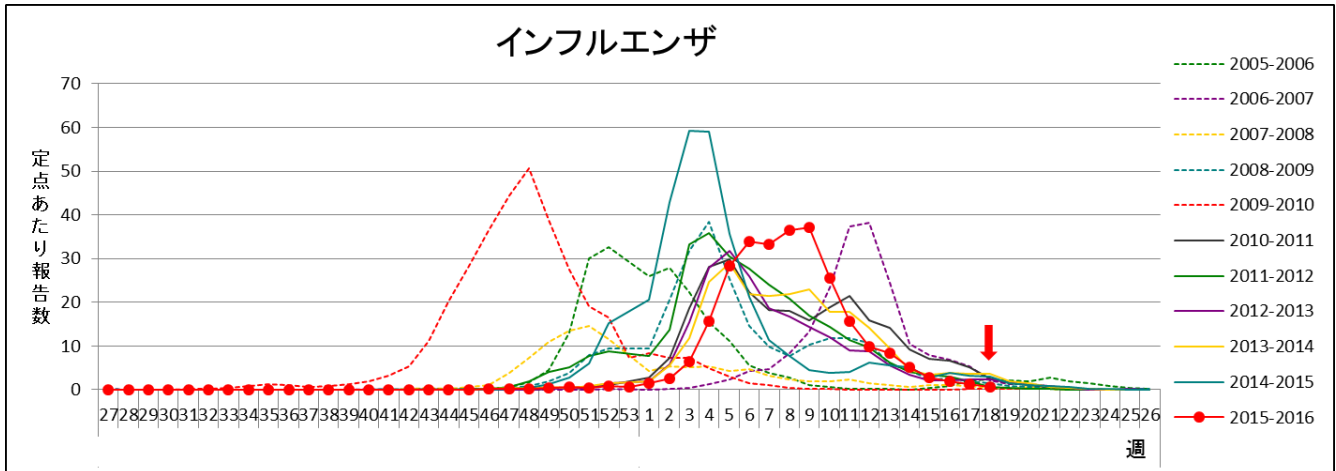


## インフルエンザ週報 2016年 第18週 (5月2日～5月8日)

岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

## ➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で46名（定点あたり0.55人）の報告がありました。（84 定点医療機関報告）
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。
- インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第27週～翌年第26週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で46名（定点あたり1.18 → 0.55人）の報告があり、第9週以降、患者報告数は減少してきています。地域別では、備北地域（2.00人）、美作地域（0.90人）、真庭地域（0.67人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。ほとんどの地域で患者報告数が減少していますが、備北地域（1.00 → 2.00人）では、前週より増加しました。岡山県は「インフルエンザ注意報」を発令し、注意喚起を図っています。

流行は終息に向かっているものの、患者が再び増加している地域があることから、ひきつづき手洗いなど感染予防に努めてください。また、症状のある方は早めに医療機関を受診しましょう。

### ◆インフルエンザは、まだ流行しています ひきつづき感染予防に努めましょう

#### 【 予 防 】

- \* 外出後は手洗いをしましょう。アルコールを含んだ消毒剤で手を消毒するのも効果的です。
- \* 人混みでは、マスクを着用しましょう。
- \* 十分な睡眠をとり、バランスの良い食事を心がけて、抵抗力をつけましょう。
- \* 室内では加湿器を使うなど、適度な湿度(50～60%)を保ちましょう。

#### 【 かかったかな？という時には 】

- \* 早めに医療機関を受診しましょう。
- \* 周りの人にうつさないように、「咳エチケット」を心がけましょう。
- \* 水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。

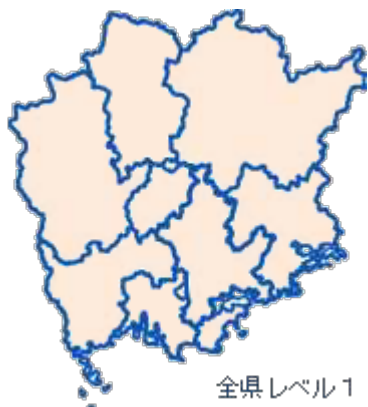
# 1.地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	46	↓	備 中	患者数	4	↓
	定点あたり	0.55			定点あたり	0.33	
岡山市	患者数	8	↓	備 北	患者数	12	↑
	定点あたり	0.36			定点あたり	2.00	
倉敷市	患者数	10	↓	真 庭	患者数	2	↘
	定点あたり	0.63			定点あたり	0.67	
備 前	患者数	1	↓	美 作	患者数	9	↘
	定点あたり	0.07			定点あたり	0.90	

【記号の説明】 前週からの推移  
 ↓ : 2倍以上の減少      ↘ : 1.1~2倍未満の減少      ↗ : 1.1未満の増減  
 ↙ : 1.1~2倍未満の増加      ↑ : 2倍以上の増加

## インフルエンザ感染症マップ

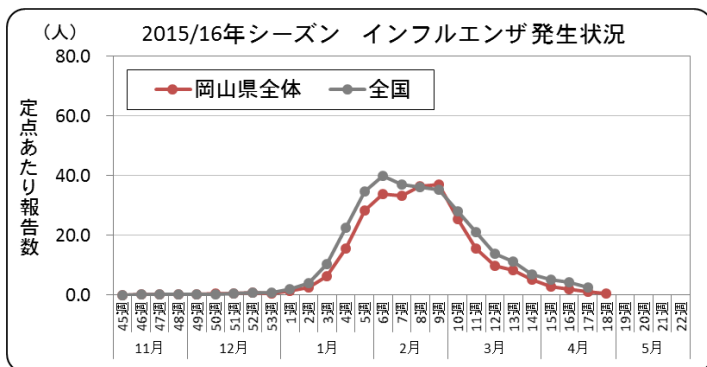
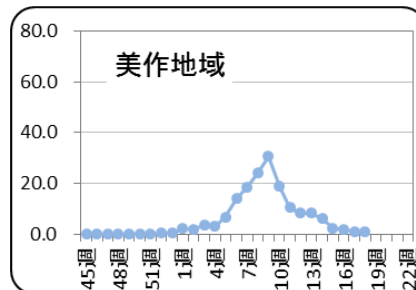
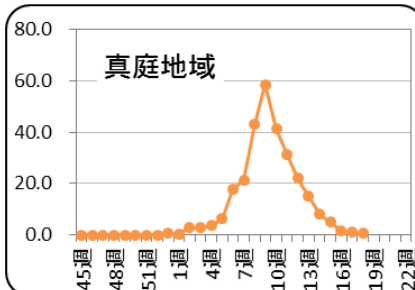
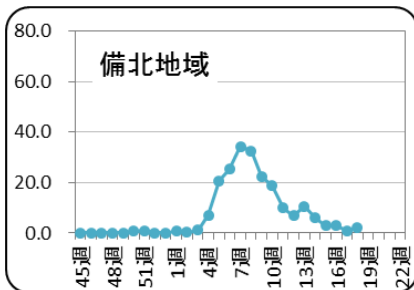
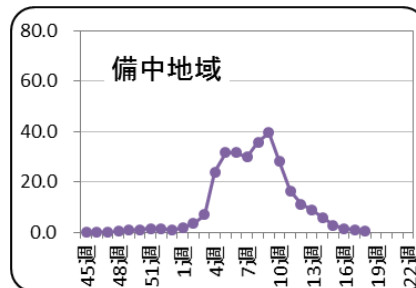
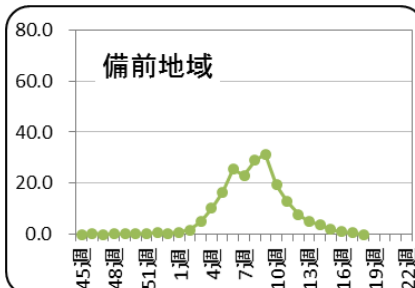
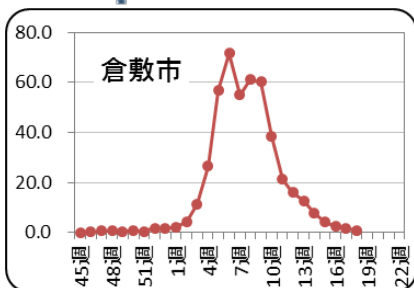
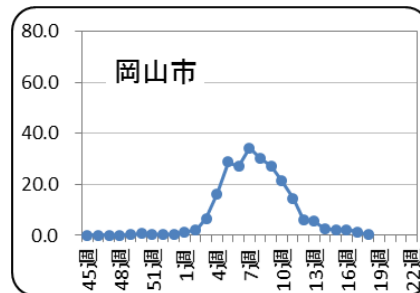


<インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10以上 30未満

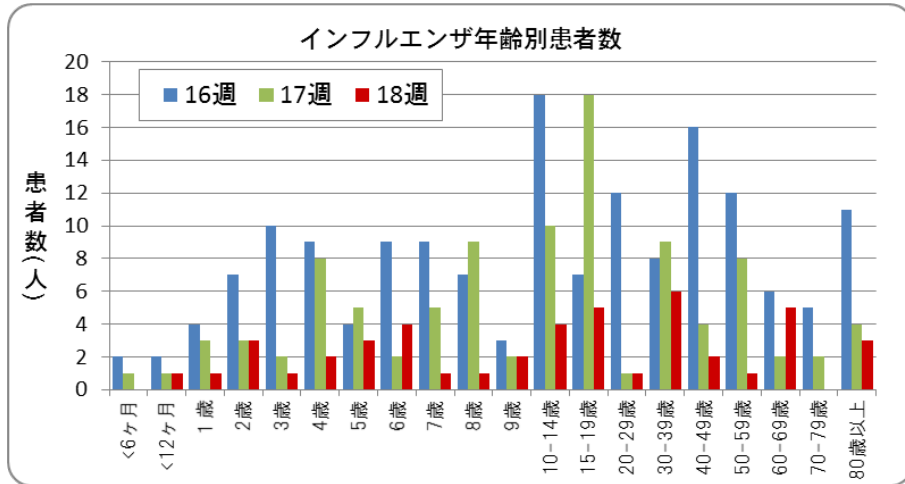
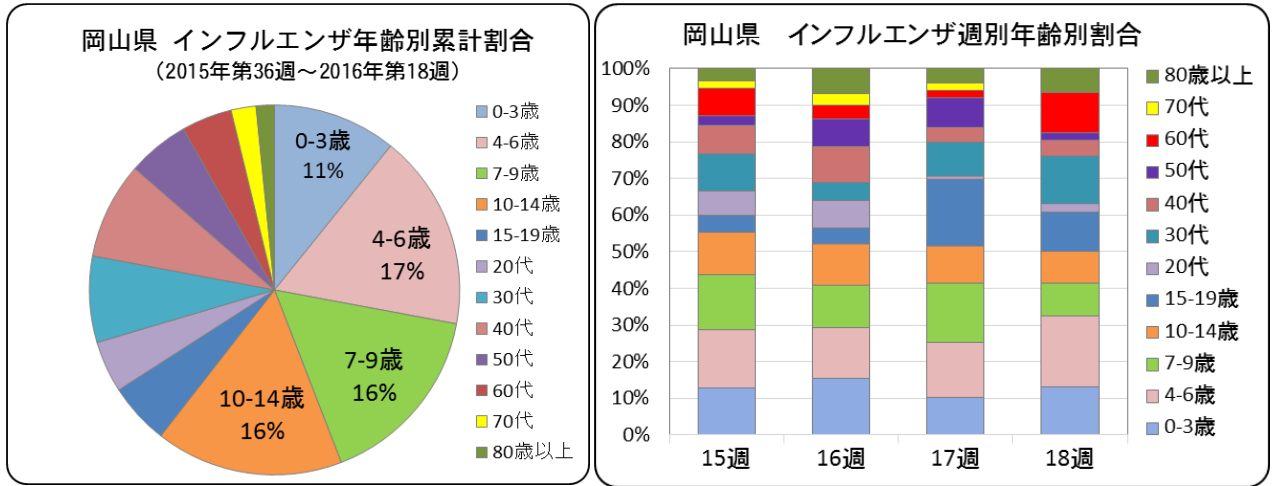
レベル1	報告なし
基準値	基準値
0< 10未満	0



全国集計第17週(4/25~5/1)速報値によると、全国の定点あたり報告数は2.51人となり、前週(4.22人)より減少しました。都道府県別では、秋田県(11.02人)、岩手県(9.03人)、新潟県(7.83人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、全都道府県で前週の報告数より減少しました。

## 2. 年齢別発生状況

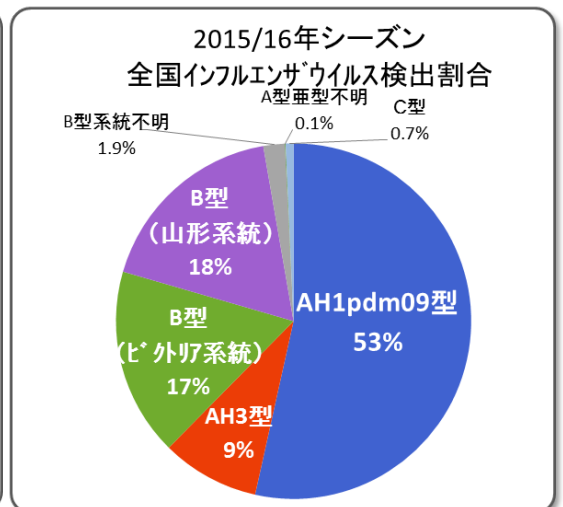
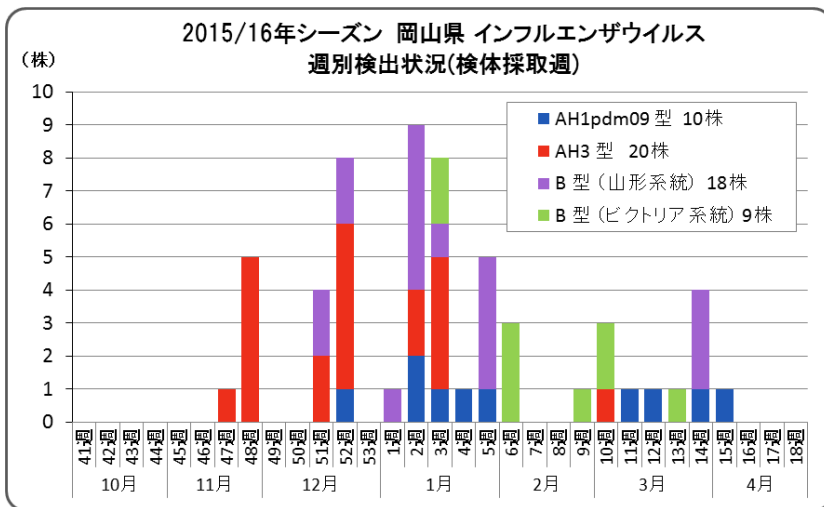
今シーズンの年齢別累計割合は、4-6歳 17%、7-9歳・10-14歳 各16%、0-3歳 11%の順で高くなっています。



## 3. インフルエンザウイルス検出状況

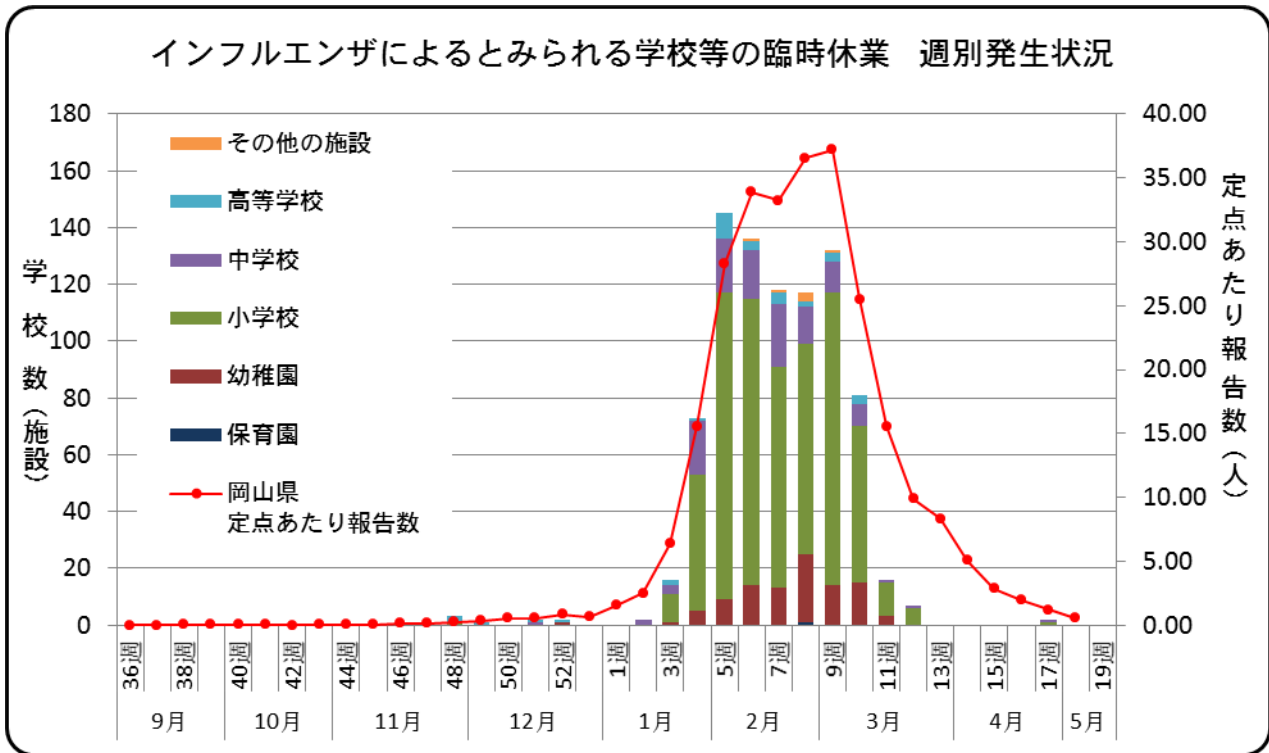
第18週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、ありませんでした。今シーズン、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、B型 27株〔山形系統 18株・ビクトリア系統 9株〕(48%)、AH3型 20株 (35%)、AH1pdm09型 10株 (17%) となっています。

今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09型の検出割合が最も多く53%、次いでB型が35%〔ビクトリア系統 17%・山形系統 18%〕、AH3型が9%の順となっています。(2016年5月6日現在)



#### 4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。



##### 1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

\* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
	岡山県全体	0	13146	0	10060	0	853	0	20	0	197	0	
岡山市	0	5048	0	3741	0	292	0	2	0	41	0	249	H27.11.24
倉敷市	0	3670	0	2823	0	225	0	6	0	18	0	201	H27.12.15
備前地域	0	1152	0	945	0	90	0	1	0	40	0	49	H27.11.24
備中地域	0	1784	0	1425	0	132	0	0	0	36	0	96	H27.11.24
備北地域	0	316	0	222	0	32	0	3	0	25	0	4	H28. 2. 3
真庭地域	0	315	0	284	0	23	0	2	0	19	0	2	H28. 2. 1
美作地域	0	861	0	620	0	59	0	6	0	18	0	35	H28.1.25

##### 2) 臨時休業施設数の内訳

第 18 週 : 0 施設

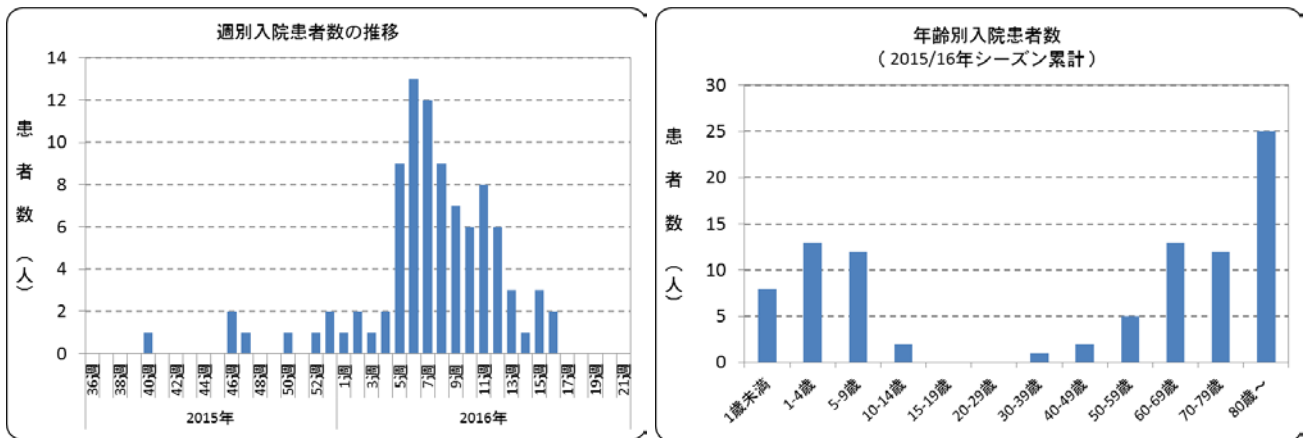
累計 : 853 施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	0	1	0	99	0	597	0	118	0	32	0	6

## 5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者の報告は、ありませんでした。

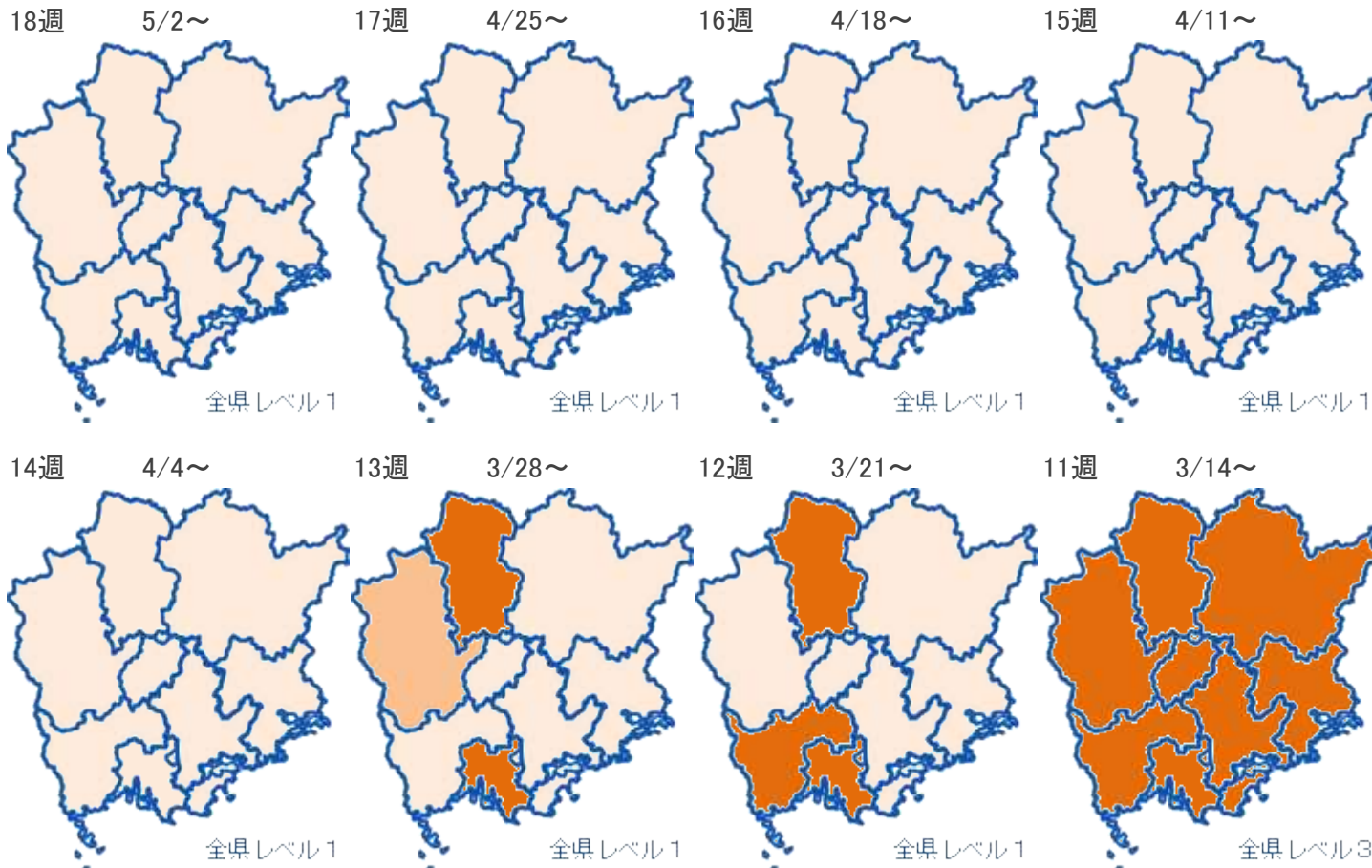
幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずとうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



### 【2015年8月31日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計
入院患者数	8	13	12	2			1	2	5	13	12	25	93
ICU入室 *			1						1	1	1		4
人工呼吸器の利用 *			1						1	1	1		4
頭部 CT 検査(予定含) *		5							1	3	1	6	16
頭部 MRI 検査(予定含) *		2		1						1		1	5
脳波検査 (予定含) *		1	1										2
いずれにも該当せず	8	7	11	1			1	2	2	9	9	19	69

\* 重複あり



## インフルエンザ

レベル3		レベル2	レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値	基準値
30	10	10 以上 30 未満	0 < 10 未満	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。